

12月



2021年

みやま

第283号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp



創立当初から当院を見守っている正面玄関前ロータリーの木

12月になりました

院長 平川 淳一

コロナ、コロナで約2年が過ぎようとしています。日本では、感染者数は極端に低く、諸外国での再拡大の様子が、ピンと来ない印象です。内心は、もう終息するのかという気持ちになってきました。私は朝6時前に家を出ますが、最近では忘年会でしょうか、夜通し酒を飲んだような5,6人の集団が目につきます。少し頭の薄いおじさんや両脇を抱えられ千鳥足で歩くトレンチコートを着た中年のおばさん、若い人もいます。やっと、みんなで忘年会をしてオールナイトで楽しんだのだろうとは思いますが、あまりの緊張感のなさに、「この会社、駄目かも」と思ってしまいます。

どうして日本だけ感染者が少ないのかという理由を聞く中で、信憑性があると感じたのは、ファイザー社の社員がいったという話です。「日本ほど、ファイザーの規定通りの超低温輸送、移動、溶解、接種までの時間など管理をきちんとしている国は世界にない。」という話です。確かに、マイナス70度以上のディープフリーザーをすぐに用意できる国は少ないし、決まりを厳守して運送する「クロネコ」さんもいないでしょう。接種場所に到着しても、1本たりとも無駄にしないように、厳格に扱いました。当院の伊藤卓医師が大学時代mRNA（メッセンジャーRNA:ファイザー、モデルナワクチンと同種のもの）の研究をされていて、わずかな体の動きでも測定値に変動があり、物凄く不安定なものだったとってました。そんなワクチンを世界で打って、効果があるのは日本だけというのは納得する話です。しかし、オミクロンという変異株が出てきて、もう1度、第6波がくると医療界では恐れています。それでも、あと半年程度と私は思います。抗ウィルス薬などの開発が進み、臨床でも使えるようになるまで、もうしばらく頑張りましょう。

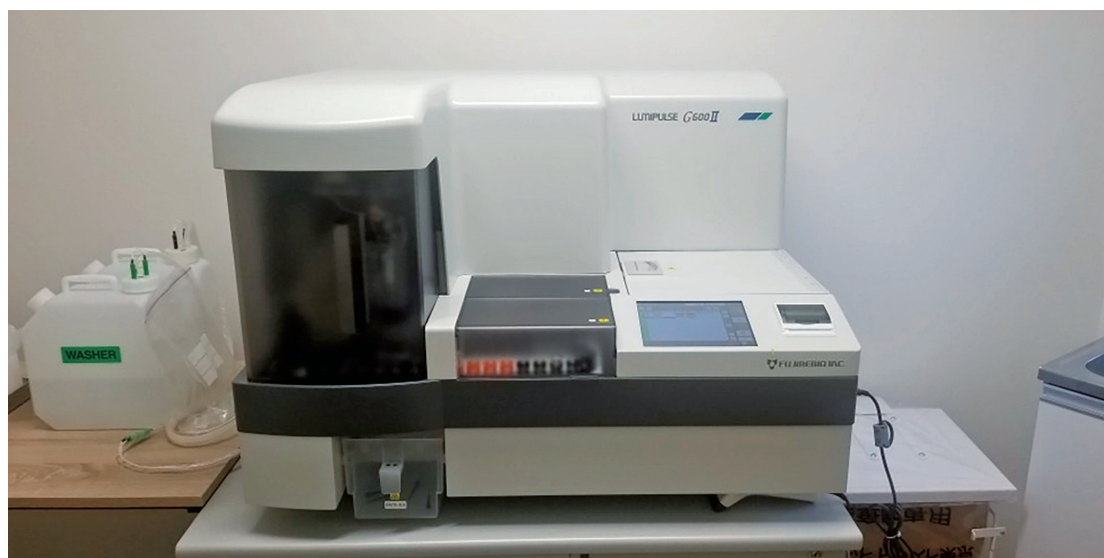
【表紙】院長挨拶 【P2・3】新型コロナウイルス感染症検査機器を導入しました

【P4】病棟たより（内科病棟）【P5】地域生活支援室より【P6】平川病院の入院治療の取り組みについて

【P7】こころの扉【P8】「永年勤続優良職員表彰」受賞者の紹介

新型コロナウイルス感染症検査機器を導入しました

中央検査科 臨床検査技師 吉田 彩乃

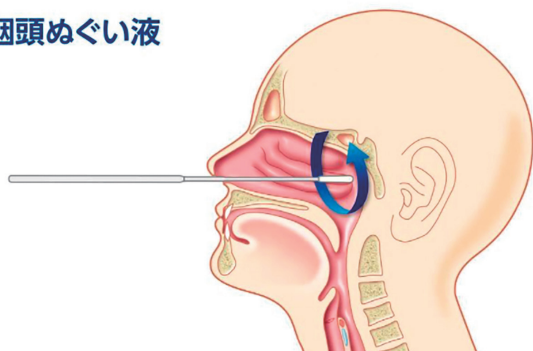


12月となり新型コロナウイルスの感染者数も落ち着いてきましたが、まだまだ油断はできない状態です。当院では、新型コロナウイルスが流行り始めた当初から新型コロナウイルスPCR検査を実施してきましたが、この度、新しい検査機器として『ルミパルスG600Ⅱ』という機械を導入致しました。

この機械では、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の抗原定量検査を行うことができます。

	抗原定量検査	PCR検査
調べる対象	ウイルスのたんぱく質の量を調べる	ウイルスの遺伝子の量を調べる
採取部位	鼻咽頭	鼻腔・鼻咽頭
検査時間	40分～1時間	検査会社に提出するため採取した翌日

●鼻咽頭ぬぐい液



抗原定量検査の際は、インフルエンザの時のように鼻の奥（鼻咽頭）にまで綿棒を入れていくので、採取の際は痛みが少しあると思います。しっかりと検体を採取しなければ正確な検査が出来ませんので、ご協力をお願い致します。

今回当院で導入する『ルミパルスG600Ⅱ』という機械ですが、この機械は空港検疫などでも使われる機械となっております。感度（感染者を陽性と判定できる割合）と特異度（非感染者を陰性と判定できる割合）がとても高い機械となっております。

	空港検疫	臨床検体	濃厚接触者
感度	100%	91.7%	70.5%
特異度	99.3%	97.3%	100%
全体一致率	99.3%	96.9%	91.9%

それぞれ、検査人数が空港検疫では1763例、臨床検体では325例、濃厚接触者では161例と症例人数としては差がありますが、どの場合でも高い感度、特異度を示しています。

抗原定量検査によって、入院する際の部屋での隔離が短くなったり、結果が出るまでの待機場所によっては結果が出次第、お部屋移動が出来ますので、病院としてもベッドコントロールがしやすくなることで入院が必要な患者様へお部屋を早く提供していくことが出来ると思います。

副院長 河合 伸

本機器はウイルスタンパクの量を測定するものです。

当院ではこれまで入院時、PCR検査を行ってききましたが、外注検査のため結果が出るまで1日の待期が必要とされてきました。本機器では40分程度で検査結果を知ることができ、患者さんの状況を素早く把握することができるようになり診療および病棟運営上の大きな利点になると思います。また抗原定量検査は、空港検疫でも用いられており、PCR検査と同様の信頼性があるといっていいと考えております。従って当院では、今後の新型コロナ検査については、抗原定量検査を主軸とし、それに基づいた感染対策体制を整えたいと考えております。

また抗原定量検査は、従来の抗原検出用キット（抗原定性検査）よりも感度が高く、抗原の定量的な測定が可能です。さらにPCR検査と同様に、鼻咽頭ぬぐい液による検査は有症状者、無症状者問わず確定診断に用いることが可能であるため、職員などの健康管理として、今後本検査を活用できるかどうか検討する予定です。

参) 厚生労働省ホームページ

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）

内科病棟 師長 木下 恵美

当院内科病棟は、平均年齢が80歳を超える、ご高齢の方が多く入院されている、医療療養型の病棟です。終末期にある患者様も多く入院されているため、最期をお看取りすることも多いです。こういったこともあり、数年前から人生会議への取り組みに力を入れたいと考えてきました。

本来であれば、人生会議は患者様、ご家族、医療従事者で行われることです。しかし、新

型コロナウイルスの流行があり、現在は面会に関する制限があるため、短い面会時間の中で、私達のご家族からお話を聴く時間はありません。

さらに、終末期や急変が予測されるような場面で、急に死に対する話を投げかけられても、多くの場合状況について十分に把握できず、不安や恐怖を強く抱き、患者様ご本人もご家族も最期に何を望むか正しい判断ができないことがほとんどです。そして、内科病棟に入院されている多くの方が、ご自身で意思決定が行えない状態にあります。そのため、患者様本人の希望ではなく、ご家族が希望されることで治療や終末期のケアが行われることが多くあります。

この様なことから、人生会議は病気になってから行うことではなく、健康である時期から繰り返し行うことが必要だと考えます。実際に、外来や地域で健康な成人を対象にこれを推奨する働きがすでに成されています。

私達も、多くの方に人生会議を知ってもらえる様啓発すると共に、病院で最期を過ごされる患者様に、その方の望む最期を迎えることができる様、支援していきたいと考えています。

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか？

もしものときのために

ADP 人生会議

「人生会議」

～あなたが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

11月30日（水）10時～12時 は人生会議の日

話し合いの進めかた（例）

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることが、できなくなると言われています。

自分が希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

あなたが大切にしていることは何ですか？

あなたが信頼できる人は誰ですか？

信頼できる人や医療・ケアチームと話し合いましたか？

話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて意思は変化することがあるため、何度も繰り返し考え、話し合いたしましょう。

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を「人生会議（ADP：アドバンス・ケア・プランニング）」と呼びます。あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html

皆さんもぜひ「人生会議」行ってみてください。

訪問看護利用者にアンケートを実施して見えたこと

地域生活支援室より

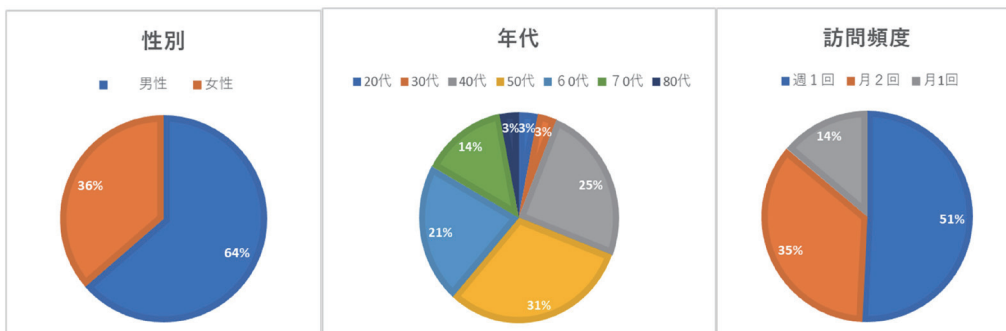
デイケア 主任 山下 美香

私は昨年10月から今年の9月まで、デイケアから訪問看護業務へと異動し、対象者のご自宅に訪問し、支援を行ってきました。異動期間が終了に近づいた頃、この1年間の関わりを振り返り、私たちスタッフの訪問を、利用者の方々はどう思っているのか、率直な思いを聞きたいと思い、アンケートを実施しました。9月に、訪問看護利用者を対象とした、「訪問看護サービスの満足度に関するアンケート」として、「職員について（態度・接遇・対応等）」「訪問内容について」「訪問看護に対する満足度」の3つのカテゴリーに分けて、設問を作り、「そう思う・まあ思う・あまりそう思わない・そう思わない」の4択で記入、男性41名、女性24名の方にご協力いただき、回収率100%でした。

集計結果より、「職員の言葉遣いや礼儀、態度、対応、職員の話しやすさ」については、90%以上の方が、満足しているとの回答が得られました。訪問内容については、「話や考えをよく聞いてくれる」「相談に乗りアドバイスしてくれる」「身体の状態なども見て

もらえる」などで、高評価を頂き、スタッフの自信につながりました。意見が分かれたのが、訪問看護に対する満足度についてでした。「訪問を受けることで、身体状態が良くなり、精神的に落ち着いているか」との設問や「訪問看護は自分の生活に必要なと思うか・利用していきたいか」との設問では、90%以上の方に満足して頂き、訪問のやりがいを感じることができました。その一方で、「自宅での生活に自信が持てるようになった」との設問では、「あまりそう思えない」と記入された方が、30%程度いました。病気の特性もあるかと思いますが、一人暮らしができていても、自信にはつながっていないことが分かり、今後、訪問看護でどのような支援をしたら自信につながるかが、課題として浮き彫りになりました。今まで、本音を聞く機会がなく、直接伝えづらいこともあったと思いますが、アンケートを通して、日々の支援を振り返るきっかけを持つことができたので、今回の意見を取り入れ、更に満足度を高められるよう、努力していきたいと思えます。

<アンケート回答者のデータ>

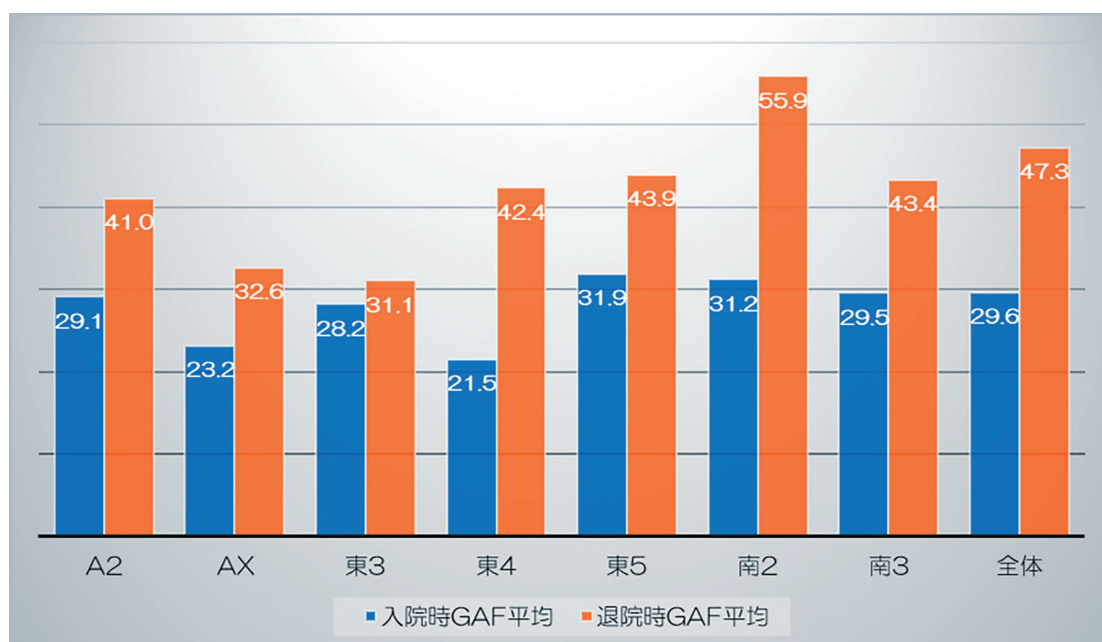


平川病院の入院治療の取り組みについて

医療の質向上促進委員会

今医療の質向上促進委員会では、患者様や職員の意見をお預かりしたり、様々な取り組みをデータ化（見える化）して平川病院の医療の質を評価し、より質の高い医療を提供できるように務めております。今回の記事では、当院の入院治療での取り組みについてご紹介したいと思います。

当院では、急性症状からの回復、休息目的の入院、生活リズムの改善など、患者様の目的に合わせた入院治療を提供しております。入院治療中は各種検査、薬物療法、電気治療、心理教育、治療プログラム、リハビリテーションなどの支援を必要に応じて行います。これら入院治療による患者様の変化をとらえるために、機能の全体的評定尺度（GAF）という指標を用いています。GAFは症状や生活の質を総合的に判断するための簡易的な指標であり、主治医が評価しています。



このグラフは、2020年4月～2021年9月の期間に入院治療を受けた患者様のGAF平均を病棟ごとに示したものです。御覧の通り、どの病棟も入院時より退院時のGAFの平均値が上昇しています。これは、入院時と比べて退院時に症状や生活の質が改善されていることを示唆しています。なお、病棟によって入退院時の数値の変化に差があるのは、病棟の機能による違いや、退院後の行き先の違い（例、自宅へ退院して復職、グループホームへ退院して地域生活の安定を目指す、入所していた施設への戻る、リハビリが終了したので転院）も関係しているかもしれません。

このように、数値上の改善は示されていますが、患者様の社会復帰、症状の回復や再発防止のため、多くの患者様にとって退院後も継続的な通院やサポートが必要になります。そのため、入院中から患者様の退院後の生活を考え、医療・支援機関の情報提供をしたり、ご家族や関係者にお集まりいただいてカンファレンスを開いたり、当院のデイケアの紹介する取り組みがあげられます。

こころの扉 その211 ～ウィズコロナ・ウィズマスクの日々～

心理療法科 公認心理師 淵上 奈緒子

コロナ禍となって3回目の担当がまわってきました。前回（2021年2月号）担当の時は緊急事態宣言下でしたが、この原稿を書いている11月末、宣言解除から1か月が経過しています。そんな折に、久々に都心のターミナル駅に出かける用事がありました。そこで私が驚いたのは、通りを行き交う人のマスク着用率の高さです。その時に私がザッと見渡した限りでは100%と言っても過言ではないくらいでした。

「そんなの当たり前じゃないか…」と思われるかもしれませんが、日本より先にワクチンを打ち始め、そして規制解除をした欧米諸国の様子がTVで映されると、人々が少なからずマスクをしていない様子が見られました。なので「日本でも同じようにワクチン接種後に宣言解除となったら、ある程度はマスクをしない人も出てくるのではないだろうか…」と予想したのです。しかし実際には、そうではありませんでした。

‘喉元過ぎれば熱さを忘れる’という諺（ことわざ）があるように、やがて私たちの心情は変化していくのかもしれませんが。しかし少なくとも今夏のひっ迫した状況は未だ‘忘れる’ほどには遠い出来事ではないということなのでしょう。前回の担当記事でとりあげた‘正常性バイアス’は、非常事態の発生後にも生じそうな心のメカニズムだとも思われ

ますが、少なくとも現時点では私たちの心は依然‘非常事態’を継続しているのかもしれませんが。

しかし一方で「ずっと非常事態のままコロナ対応を（考え）続ける」というのは心理的にはもちろんのこと、社会経済的にも無理や破綻が生じてきます。そのためマスクをはじめとしたさまざまな感染対策を継続しながら、社会経済活動を段階的に再開する…という、いわゆる‘ウィズコロナ’な方策も取られつつあります。

それと同時に心理的にも少しずつ‘日常’を安全に取り戻すためにも、「もしかしたらマスクは、今や私たちにとって心の安心も守ってくれる‘備え’となりつつあるのかもしれない」と感じました。

そんな中、にわかに新たな変異株の発生が報じられ、再び世界的に‘警戒体制’となりつつあります。この号が出る頃、どうか再び爆発的な感染状況となっていないことを祈るばかりです…



「永年勤続優良職員表彰」受賞者の紹介

永年勤続優良職員表彰は、所定の基準を満たし、勤務成績の優れた方に贈られるものです。今年度の対象者は、以下の7名です。受賞者の皆さん、おめでとうございます。



左から、馬場さん、山中主任、真島師長、椎名センター長代理、荻生科長、院長、浅見主任

＜日精協30年＞ 3名

本田美智子 師長（AX病棟）
 真島 智 師長（東4病棟）
 椎名 貴恵 センター長代理（認知症患者医療センター）

＜東精協10・20年＞ 4名

荻生 淳希 科長（医療相談科）
 山中 裕司 主任（リハビリテーション科）
 浅見 友則 主任（栄養科）
 馬場 亮太 さん（A2病棟）

編集後記

年の瀬を迎え、1年を締めくくる時期となりました。流行語大賞は「リアル二刀流、ショータイム」、ベスト10に入った「うっせいわ」「人流」は妥当か。小室さんの好きな言葉でいつの間にか話題になったLet it be は、そうきたか。個人的には「絶対大丈夫」ですね。今年の漢字（未発表）は、新型コロナウイルス（第5波）の感染下で開催された、東京五輪で感動・・・「感」はどうかと。今年も1年間「みやま」をご愛読頂きありがとうございました。来る年が少しでも明るい話題が多くなることを祈念して、よい年をお迎え願います。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076
 電話 042-651-3131
 FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

